

7

2004年

組合広報

NO. 451

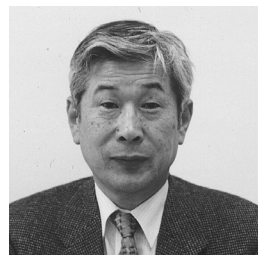
よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	排水水質データの提供をお願いします	副理事長 川上 洋一	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		2
	工組環境プロジェクト、技能教育委員会		3
	広報委員会		5
あなたの予定表	8月の環研・協組集荷日程ほか		6
	訓練校8月授業案内、訃報		7
	都議会定例会自民党代表質問		8
	広報委員会「正副理事長座談会」		10
	都中央会副会長就任を祝う会		15
	全鍍連総会・専務理事就任の布袋屋氏		17
	経産省非鉄金属課長に中山氏、めっき技術コンクール開催		
	東鍍工組第7回親睦ゴルフ大会		18
	十日会6月例会「福井電化工業(株)見学」		22
	十日会5月例会		
	暑中名刺広告		25
	随想「哀愁 湖底の古里」	組合相談役 江原たけじ	34
ピック・アップ	究開発型企業の挑戦ほか		36
支部シリーズ	足立支部の巻「千住ミルデイス」		38
つま恋坂	黒服	藤田直人(品川支部)	40
支部通信	中央支部、葛飾支部		41
	連合青年部会		
	都内中小企業の景況		44

排水水質データの提供を お願いします



副理事長 川上洋一

21世紀は環境の世紀とも言われ、環境規制の強化は年ごとに厳しさが増してまいりました。ほう素、ふっ素、硝酸性・亜硝酸性窒素、土壤汚染問題、水生生物による亜鉛の規制強化の動きと、これら問題解決の処理技術(中小零細企業が取り入れられる)が確立されていない現状で、困難で順守できない規制より、処理可能な守れる規制をしていただきたいと思います。

東京都鍍金工業組合としては関係方面にアクションを起こす環境プロジェクトと、組合員みなさまほか(処理技術開発等)から情報の収集を行う環境委員会との連携をもちながら問題の解決に取り組んでいかなければなりません。それには業界みなさまのご協力なくしては成果が上がりませんので、よろしくお願い申し上げます。

平成16年6月8日(火)都議会において都議会自民党の古賀先生が、めっき産業は東京のハイテク産業を支える基盤的な産業であり、ものづくり産業を代表する重要な地場産業であることを強調されたうえで、暫定基準の問題、土壤汚染問題で、めっき業界のためにご質問をしていただきました。めっき業界として心より感謝申し上げます。

1)ほう素、ふっ素に関しましては暫定も暫定基準値各50mg/lが3年間いただきました。ほっと一息つく暇はございません。3年後には基準値をクリアしなければなりません。でも処理方法が確立されておられませんので対策に頭が痛いところです。もう一度ほう素、ふっ素、亜鉛の3物質の排水水質のデータを環境委員会に提供をお願いします。

2)水生生物の保護に伴う亜鉛の規制強化を環境省が決定しても、下水道の受け入れ基準値は従来の5mg/lを堅守していただきたい。

3)土壤汚染対策問題について

全鍍連におきまして経済産業省のお力添えで作成したガイドライン(土壤汚染問題に打ち勝つめっき事業経営)を配布し勉強会も予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

大村理事長日誌



6月

- 1日(火) 機材工会長川島利夫氏叙勲受
章祝賀会
4日(金) 工組事務局
東京都産業労働局打合せ
全鍍連と東京組合合同会議

環境プロジェクト

- 7日(月) 公明党大会
10日(木) 広報正副理事長座談会
都中央会副会長就任を祝う会
13日(日) 城南支部慶友会
15日(火) 東京都産業労働局打合せ
亜鉛めっき部会総会
19日(土) 保坂三蔵参院議員講演会
22日(火) 都中央会総務委員会
都中央会税務委員会
広報支部長座談会
23日(水) 小杉隆衆院議員セミナー
都中央会組織委員会
24日(木) 都中央会金融委員会
都中央会労働委員会
25日(金) 年金基金鯉沼常務理事ご令室の
告別式、亜鉛部会南支部総会
29日(火) 健保組合監事会
30日(水) 都中央会役員評議員合同会

～組合・関連団体行事予定～

- 8月2日(月) 工組専務理事歓送迎会
8月3日(火) 広報委員会
8月5日(木) 正副理事長会
都産技研との業務懇談会
8月20日(金) 技能教育委員会
支部長会
全鍍連技術委員会
8月27日(金) 十日会納涼会
9月1日(水) 正副理事長会
9月6日(月) 日本硬質クロム工業会三役
会・情報委員会
9月7日(火) 監事会
9月8日(水) 環境委員会
9月17日(金) 北海道東北ブロック会議
9月22日(水) 合同会、顧問・相談役会
10月5日(火) 広報委員会
全鍍連国際委員会
10月6日(水) 全鍍連近代化推進委員会
10月7日(木) 環境委員会
10月15日(金) 正副理事長会
関東甲信越静ブロック会議
10月14日(木) 全鍍連広報委員会
10月15日(金) 訓練校工場見学会
東海北陸ブロック会議
10月21日(木) 全鍍連技術三役会
10月22日(金) 近畿ブロック会議
10月23日(土) 技能教育委員会
第3回修了生講演会(京王プラザ)
10月28日(木) 全鍍連総務委員会
10月29日(金) 中国四国九州ブロック会議

工組 第1回 環境プロジェクト

暫定期間中の達成目的

と き 平成16年6月4日(金)
午後6時30分
ところ めっきセンター理事長室
出席者 大村、石川、川上、八幡
菊池、神戸、矢部
(事務局)宮部

石川進造委員長、大村功作理事長から挨拶の後、議事に入った。

1. 暫定期間中における達成する目的と活動方針

石川委員長から、これからの活動方針について、「暫定排水基準については、国に関わる情報は全鍍連に、今後流していかなければならないが、東京都の問題は、状況を見て流すようにしたい」とした。そして、添付資料の、パブリックコメントの内容について、「今後は、どこに目標を立てて、進めていくか。汽水域についてのパブリックコメントには、環境省の答えはなかった。過去に水質審議会でも、汽水域の概念がないと言っていたので、環境省にもその概念がないのではないか。現実には汽水域は存在するので、汽水域の定義をする方法。それと、下水道局の排除基準の変更が出来ないのか、の2点で進めていきたい」との話に、大村理事長は「汽水域の問題は、都議会自民党の先生が、定例会に議題として話してくれるとの報告があった」。さらに「暫定排水基準については、暫定基準の延長をしていただいたので、しばらくは動かず、土壤汚染の問題について、どのように要望を出していくかを決めてから、自民党の先生方をお願いしたい」と述べた。

2. 規制物質の除去技術の取り組み

石川委員長から「3年後の時点で簡便な処理技術が出来ていなければ、暫定基準が終了する3年後については、全鍍連に暫定基準の再延長のお願いするようにしたい。」となった。

3. 土壤汚染防止法の対策

「土壤汚染については、どのように対応していくか。」「土壤については、入れ替えをするにも、除去するにもお金もかかる」「過去の土壤汚染をどのようにするのか」「会社と国の両方に責任を分けられないのか」「土壤は、含有している物質によって、無くなるものと残るものがある。しかし、土壤の入れ替えについては、入れ替えた場所はきれいになるが、汚染された土壤については、どのようにしていくかが、不明瞭である」などの意見が出た。大村理事長より、6月8日に自民党の代表質問があるが、どのように質問されるかが、わからないので、今後の様子を見ておきたい」

4. 今後の活動について

大村理事長より、「自民党の大西幹事長が、小池環境大臣を都議会にお呼びして、めっき業界との懇談会を7月頃に開く予定になっているので、それまでに土壤汚染の何について要望するのか決めておかなければならない」

要望については次の提案を行うが、この資料をもとに各委員は、次回までに追加提案を考えてほしい。

- 1) 過去の汚染を企業の責任と同時に、国の責任でもあるので、企業の責任だけにはしないほしい(法制定以前の汚染除去は国の責任)
- 2) 現事業者の前に、めっきをしていた事業者の責任についての要望を出す。
(現事業者の免責を明確にする)
- 3) 現在のめっき業が、すべての汚染の原因を作っているのではないので、過去の履歴について、公的機関での調査を要望する。
- 4) めっき業者が、設備の入れ替えなどする際

に、土地を担保に金融機関から借りることが出来ない。東京都は来年銀行を作るので、優先的に貸しだすことを要望する

5) 廃業後の救済策として、

① 土壌汚染に苦しむ組合員にたいする金融的な支援策として、めっき基金等を作る提案を行う。全鍍車で運動をして税制をからめる制度にする。

(基金の内容については、詳細に検討する。すぐには役にたたない。)

② さしせまった場合の救済策を別途に考え要望する。

次回の環境プロジェクトを7月5日(月)午後6時からめっきセンター2階理事長室で行う。

工組 第1回 技能教育委員会

修了生講演・懇親会決める

と き 平成16年6月7日 18:30～
ところ めっきセンター第2会議室
出席者 八幡、志田、高倉、下平
芹川、岡崎、荻宿、菅野
田村、大和田、石井、豊田
中田、太田、坂井、安西
鈴木
訓練校神戸、環研志賀、長嶋
環研職員全員、事務局宮部、三鴨

志田委員長、八幡副理事長の挨拶後、議事に入った。

1. 実技試験の要領

① 受検者数の発表 1級受検者6名、2級受検者60名、3級受検者2名の合計68名

② 技能検定日程発表

- ・ 実技試験 7月24日～25日(2日間)
- ・ 第2回委員会 7月3日(土)9:00～

・ 課題説明会 7月3日(土)10:00～

・ リハーサル 7月14日(水)18:30～

③ 技能検定総務内容

・ 7月6日課題説明会

① 挨拶 志田主席検定委員

② 誘導 豊田委員

③ 試料 鈴木委員

④ 亜鉛 中田委員

⑤ ニッケル 芹川委員

⑥ 分析 石井委員

の順番に、課題説明会を行うこととし、3級については、別室にて説明会を行う。

④ 業務分担の確認

各部署において数人の移動があり、新たに城東支部より岡崎寛氏を迎え、ニッケルクロムラインをお願いした。

⑤ スケジュールの確認

3級の受験生(2名)は、1日目の1級と同時に進めることとした。1級が6名となり2組、2級が60人で20組の受験者となった。

2. 技能検定までの準備作業

7月14日のリハーサルまでに、準備を行っておくこととする。

3. 技能教育委員会の予定

① 7月27日9:00～ 訓練校生産実技(めっきコンクール)

② 8月20日18:30～ 第3回委員会 技能検定慰労会

③ 10月23日 未定 第4回委員会(京王プラザホテル)

④ 10月23日11:00～ 第3回訓練修了生講演・懇親会

⑤ 1月26日18:30～ 第5回委員会

⑥ 2月5日9:00～ 訓練校技能照査

⑦ 3月1日18:00～ 訓練校成績判定会議

⑧ 3月18日17:00～ 訓練校修了式

⑨ 3月25日18:00～ 訓練校素養調査

⑩ 4月5日18:00～ 訓練校入校式

4. 技能検定講習会について

- ①料金は1人当たり、8,000円。
- ②ハルセル試験練習会は、過去の例では組合員のみ希望者がおり、1日だけの予定だが、万一4人以上希望者がいた場合は2日行う。ハルセル試験練習会の会費は1万円とする。
- ③課題説明会、講習会案内を受験票と一緒に発送する。

5. 第3回訓練修了生講演・懇親会について

- ①平成16年10月23日(土)11:00~14:00、京王プラザホテルで行う。
- ②会費は7,000円とする
- ③講師は清川メッキ工業(株)常務取締役 清川卓二氏に依頼、講演テーマは「めっき工場環境経営への取り組み」である。

6. その他

- ①分析試験の作業手順については、薬品の入れ違いをしたとしても、戻したりしなければ、動作減点にはならない。
- ②各試験の回答用紙に、受験番号だけではなく、名前も入れたほうがいいのかとの意見があったが、中央職業能力開発協会へ確認することとした。
- ③第4回委員会は、10/25(月)に行う予定であったが、10/23(土)に講演会があり、委員に負担がかかるので、10/23(土)京王プラザホテルにて行えないかとの案があり、今後確認する。

工協組・第1回 広報委員会

年間スケジュール決める

と き 平成16年6月4日(金)
午後6時30分~8時
ところ めっきセンター会議室
出席者 姫野、木村、半田
内山、石川、上原、堀江
小島、広根、籠利、野田
(事務局) 島田

木村委員長の司会で開会し、はじめに姫野

副理事長は「今日全鍍連執行部と東京組合の正副理事長が話し合いをしてきたが、広報の影響が如何に大きいかを感じた。逆にそれだけ広報に関心をもって頂いていることを嬉しくも感じた。今後は東京組合と意思の疎通を図っていくことにしたが、広報が如何に大事かということを改めて感じた」と挨拶した。

1. 広報6、7、8月号について

各支部総会、本部総代会を中心とした6月号の内容をチェックした。7、8月号は台割により内容を検討、7月号は正副理事長座談会を中心として編集する。8月号は技能検定試験等を掲載する。

2. 広報委員会年間スケジュール

原則として第1週火曜日午後6時30分から開催することとし、他の組合行事等と重なる場合は前後にずらすことにした。

第1回：6月4日(金)／めっきセンター、
第2回：8月3日(火)／東天紅、第3回：10月5日(火)／センター、第4回：12月7日(火)／外部、第5回：2月1日(火)／センター、第6回：4月4日(水)／センター

3. その他懇談

現在も国内空洞化が大きな問題となっているが、最近は海外へ出た仕事に向こうで出来ないということで国内に戻っている。メーカーも、プレス、めっき、アッセンブリーなど20%相当コストダウンしてもらえば中国へ行かないだろうという。中国も安いものはやりたくない傾向があるようだ。

かつて、広報委員を通じて各支部の景況調査をまとめたことがあるが、再度行ってみたいなどの意見があった。

最後に半田副委員長は「広報委員会運営にご協力を頂き感謝申し上げる。冒頭姫野副理事長から話があったように、広報誌に対して全鍍連はじめ各界から関心を集めたということで、広報もなかなかだと思った。今後も出来るだけ記事内容を充実させていきたい。ご協力をお願い申し上げます」と閉会の挨拶。

8月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	日				
2	月	専務理事歓送迎会		城東支部	
3	火	広報委員会	大田支部	城北支部	
4	水		品川支部・大田支部	中央支部	
5	木	正副理事長会	城南支部	目黒・世田谷地区	
6	金		城西支部	葛飾支部	
7	土				
8	日				
9	月		城西支部・城北支部	足立支部	
10	火		中央支部・本所支部	西部支部	
11	水			城南処理センター	
12	木			夏季休暇	
13	金				
14	土				
15	日				
16	月			品川地区	
17	火				
18	水			向島支部	
19	木			本所支部	
20	金	技能教育委員会・支部長会	向島支部	葛飾支部	全鍍連技術委員会
21	土				
22	日				
23	月			蒲田・大森地区	
24	火		西部支部	城西支部	
25	水		城東支部・葛飾支部		
26	木				
27	金		葛飾支部	葛飾支部	十日会納涼会
28	土				
29	日				
30	月				
31	火		足立支部		

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

8 月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
3	火	A	電気設備 (電気工学概論)	整流器の概要、電源設備、設置、保守、トラブル対策等。 富士電機工業㈱ 内野 孝
		B	装飾クロム① (めっき法)	目的、化学的・物理的性質、クロムの液成分と原理、表面性状、特性等。 明盛鍍金工業㈱ 高倉利守
6	金	A	設備管理 (生産工学概論)	対流と噴流、ろ過の原理、活性炭処理、ろ布の特性。 ㈱三 共 山田 茂
		B	装飾クロム② (めっき法)	クロムめっきの電圧と電流曲線、つき廻り、均一着着性。3 価クロムめっき 明盛鍍金工業㈱ 高倉利守
10	火	A	硬質めっき① (めっき法)	工業用クロムめっき、めっき条件の要因と特性、建浴法、作業条件。 武蔵工業大学名誉教授 星野重夫
		B	銅めっき① (めっき法)	銅めっきの種類、特徴、用途、シアン浴成分の働き等。 ㈱ハイテクノ 鈴木昭一
24	火	A	銅めっき② (めっき法)	光沢めっき、不純物の影響と除去、電流波形等。 ㈱ハイテクノ 鈴木昭一
		B	硬質めっき② (めっき法)	N i 系合金めっき、気相めっきの条件と特徴など。 武蔵工業大学 星野重夫
27	金	A	貴金属めっき① (めっき法)	貴金属の分類・特徴・諸性質、貴金属めっきの化学、電着機構 元デグサジャパン㈱ 村楨 利弘
		B	銅めっき③ (めっき法)	硫酸銅とピロリン酸銅の特徴と用途、浴成分の働き等。 株ハイテクノ 鈴木昭一
31	火	A	貴金属めっき② (めっき法)	装飾用金めっき、カラーゴールドの分類種類、他の貴金属めっき等。 デグサジャパン㈱ 村楨 利弘
		B	銅めっき④ (めっき法)	ピロリン酸銅めっき浴特有の問題、めっき条件、ノシアンアルカリ浴等 ㈱ハイテクノ 鈴木昭一

謹んでご冥福をお祈りいたします。 訃 報

若林一之様(城南支部・日本電化工業㈱社長)6月19日午後1時30分腎臓ガンのため死去、70歳。告別式は7月9日午後1時から元麻布の専光寺本堂で行われた。喪主は了一氏。

鯉沼美代子様(関東鍍金工業厚生年金基金鯉沼邦男常務理事のご令室)6月23日午後4時10分死去、53歳。告別式は25日午後12時30分からライフケア船橋会堂で行われた。喪主は邦男氏

橋本マキコ様(日本フィルター㈱社長・前機材工会長の橋本康彦氏のご令室)6月26日死去、71歳。告別式は29日午前11時から横浜市港南区の㈱清水康益社／サバスホールで行われた。喪主は康彦氏。

浅場謹一郎様(全鍍連相談役、㈱日広鍍金工業所社長)6月25日午前11時45分死去、85歳。告別式は29日静岡市新川のあいネットホール新川で行われた。喪主は長男の延雄氏。

都議会定例会自民党代表質問 ほう素・ふっ素等処理技術開発、土壤汚染問題等で質問

平成16年第2回都議会定例会(6月8日)で「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」(環境確保条例)の一部改正が上程され、そのあと各党の代表質問が行われた。

条例の改正は、水質汚濁防止法に基づいて定められた、排水基準を定める省令の一部を改正する省令の改正により、ほう素及びその化合物並びにふっ素及びその化合物の排水基準に係る適用業種等ごとの暫定排水基準の適用期限が延長されることに伴い、都における独自規制(いわゆる横出し規制)部分についても、暫定排水基準を見直すとともに適用期限を延長する内容となっている。

各党の代表質問では、はじめに自由民主党の古賀俊昭議員が、行政、治安、産業振興、環境対策などについて質問し、その中でめっき業界が抱える、ほう素・ふっ素等の処理技術開発や土壤汚染問題について取上げて頂いた。概要は次の通り。

めっき産業は東京のハイテク産業を支える基盤的産業であり、同時に東京のものづくり産業を代表する重要な地場産業である。しかし、土壤汚染、水質保全対策など環境への配慮が求められており、その対策に苦しんでいるのが現状である。たとえば水質汚濁防止法に基づくほう素、ふっ素等の排水基準に対応していない企業が数多く存在する。これまで国は暫定排水基準を設定し対応してきたが、このたびその基準を強化するとともに、期間を3年間延長するとしている。しかし、暫定期間が終了する平成19年には本則が適用され、さらに規制が厳しくなる。また、亜鉛の規制を強化する国の動きがあるとも聞いており、



将来の動きを先取りした技術開発の対応が急務である。わが党は新たな規制に対応していくため技術開発等に必要となる財源の措置等を国へ働きかけていくことを考えている。都においては3年後の本則適用および新たな規制の動きにどのように対応していくのかうかがいたい。

次に排水問題と並んで大きな問題は土壤汚染対策がある。本年第1回定例会においてわが党はめっき産業をはじめとする中小零細業者の土壤汚染対策に関して、都に対して親身な相談対策の確立や大都市の実情に合った低コストな土壤汚染処理技術の開発促進を求めた。都は早速総合相談窓口を設置し、中小零細業者の説明会を開催するなど支援策の充実を図られたところである。中小零細企業者にとって土壤汚染の処理コストの低減は極めて重要な課題であり、そのためには技術開発の促進とともに土壤汚染処理の市場に一層の競争が重要である。また住工混在地区の事業者にとって、近隣への配慮とコスト削減の面から土壤汚染処理期間の短縮も重要である。このような課題に対して都はどのように取り組んでいくのか伺いたい。

さらに土壌汚染対策に関して処理費用とは別に調査費に関する問題がある。工場など改築する際には土壌汚染対策法や環境確保条例により土壌汚染状況を調査し、汚染があれば対策をとることが義務付けられているが、土壌汚染対策法では小規模で住居兼用の工場を廃棄する場合などは調査を猶予される仕組みがある。しかし条例にはこのような猶予の規定がないため工場を廃止し転業など生活基盤の再建に取り組まなければならない中小零細企業者にとっては今後の見通しを立てていく上で大きな不安材料となっている。都においても住工兼用の建物に居住続けなければならない中小零細企業者の立場を考慮して、環境保全上の支障がないかぎり、このようなケースについては土壌汚染調査を猶予すべきと考えるが、いかがか。

この質問に対し、担当局長から次のような答弁があった。

＜産業労働局長＞

- (1) 都立産業技術研究所では、ほう素の代替剤として、環境への負荷の少ないクエン酸によるめっき液を開発した。
- (2) 3年後の厳しい排水基準にも対応できるよう、今年度から、めっき関連企業との共同開発研究を行い、実用化に向けた実証データを積み重ねて信頼性を高めていく。
- (3) また、今後、亜鉛の規制を強化する動きがあるため、このことも踏まえた排水処理技術等の開発を進める必要があり、国にも調査研究や財源措置等の要望を行い、的確に対処していく。
- (4) さらに、新たな技術開発等に前向きに取り組む中小企業に対しても、経営革新法の施策を通じ支援していく。

＜環境局長＞

- 中小零細事業者にとっては、処理の低コスト化と処理期間の短縮を図ることが重要な課題であると認識している、
- 処理業者間の競争を促し、低コスト化に誘導するためには、中小零細企業者が処理コスト等の情報を把握し、適切な処理方法を選択しやすくしていくことが有効である。
- このため、都は、各種の処理技術の特徴やコスト等を競うフォーラムを来月開催するとともに、最新の技術情報等をデータベース化し、事業者に広く提供していく。
- また、処理期間の短縮には、現場で汚染物質やその範囲を迅速に把握することが必要である。このため、環境科学研究所において、大学や企業との共同研究を行うなど、現場で迅速に分析できる測定法を検討するとともに、国に対しても測定法の確立を強く求めていく。
- 次に土壌汚染調査の猶予についてであるが、土壌汚染による健康への影響を未然に防止するためには、汚染された土地から、周辺環境への汚染物質の拡散防止を図る必要がある。このため、環境確保条例では、工場廃止の際には、更地化などで汚染の拡散のおそれがあるため土壌汚染調査を義務づけている。
- ご指摘の住工兼用の建物に居住を続けるような場合には、建物が存続する間は汚染拡散のおそれがないことや調査が困難であることなどの実態を踏まえ、弾力的な対応に努めている。
- 今後、土壌汚染調査の猶予の取扱方針について明文化し、中小零細事業者が安心して対策に取り組めるようにしていく。

正副理事長座談会

組合活動により、めっき業界に対するほう素・ふっ素等の暫定基準の問題が国会で取上げられ、3年間の延長が決まったが、その3年後の問題や土壌汚染問題等、まだまだ多くの難問を抱えており、組合活動が重要となっている。当面する課題と対応等について、正副理事長に語って頂いた。なお、座談会当日(6.10)由田副理事長、八幡副理事長が所用のため出席できず、後日ご寄稿を頂きました。

木村秀利広報委員長 5月の総代会が終わり、平成16年度組合事業がスタートしておりますが、恒例の広報座談会を開いて正副理事長に新年度事業に対する抱負を伺いたと思います。昨年は環境プロジェクトが発足し、暫定基準の延長という成果を上げて組合員一同大変感謝していますが、その辺のことも含めて大村理事長にご挨拶をお願いします。

大村功作理事長 今期の組合運営について、私が考えていることを簡単に述べさせていただきます。今期廃業脱退がどのくらい出るかわかりませんが、今後の出資金の減少問題を踏まえてシミュレーションを作って検討していきたいと考えています。これまで大体30社前後脱退していましたが、それが20社前後に減っており、そろそろ下げ止まったのではないかなと思っています。いずれにしても出資金が減るのは問題であり、どうしていくか検討しなければいけないと思います。

すでに定款、諸規則が整備されましたが、こういう時代の流れですから、節約という意味で退任役員、委員さんの記念品をどうするか、改めて検討して頂き細かい規約の整備をしていきたいと思っています。

めっきセンターの改修工事について再度見積りをとっています。その後新たに裏側の窓



の老朽化等細かい問題が出ていますので、再検討した上で、改修工事を進めていきたいと考えています。

その他来年の新年会や全鍍連関係がありますが、目前に迫っているのが10月8日黒雅叙園で行います全鍍連関東甲信越静岡ブロック会議があります。いままでのやり方ではなく、どういう形で行うか正副理事長会でも検討しますが、地方事業報告等、文書で出せるものは出して、出来るだけ討議をしたり親睦を深める場にしたいと考えています。特に1都10県という大きなブロックであり、例年分割が懸案事項になっています。それと土壤汚染問題、もう1つ全鍍連の賦課金問題を中心に検討してもらいたいと思っています。今期の賦課金は総会で予算が決定されているので、来期にむけて今期中にどういうことをやっていくか、今期は真剣に検討してもらいたいと思っています。

事業運営では、例年通り4つの柱を推進していきます。環境規制問題は、環境委員会と環境プロジェクトの2本立てで、環境委員会では環境問題を勉強し支部にも広めて頂き、環境プロジェクトも環境問題を勉強し、関係方面への要望請願運動を展開して頂きます。人材の育成は、技能教育委員会が中心になりますが、第一に訓練校運営、技能検定試験の運営、各種講演会、講習会の開催、また今期は訓練校卒業生のフォローアップ事業が主なテーマになるかと思っています。3番目に新技術の開発と高付加価値化ということで、新技術の開発は製品が主でありましたが、これからは処理技術、土壤汚染処理問題が大きな課題になると思うので、技能教育委員会と環境委員会で作ってもらいたいと思います。情報化の推進は、広報委員会とホームページ特別委員会の2本立てで進めていきます。以上事業運営は4本柱で進めていきます。

公防協組は前年度有価金属が高値になったことで利益を生みましたが、今期もそういう

方向で利益を見込んでいます。間部担当副理事長が運営委員長となって積極的に取り組んで頂いています。こうした良い状況を出来るだけ続けて頂けるようお願いしたい。また、城南処理センターの施設が古くなってきているので、昨年度の利益をもって修繕を行い、引き続き良い方向へもって行って頂きたいと思っています。

木村広報委員長 大村理事長から組合運営、関連事業など多岐にわたって話を頂きましたが、組合員の脱退が下げ止まったという話をもう少し詳しくお願いします。

大村理事長 この善し悪しは別として土壤汚染問題から廃業しにくくなったこともあるのではないかと思います。工場跡地の処分が難しくなり、廃業しないで頑張っていくしかないということもあると思いますが、昨年に比べて脱退が少なくなっています。

木村広報委員長 めっきセンターの大改修では、資金手当が必要ですが、出資金が減少していくなかで賦課金の値上げ等を考えているのですか。

大村理事長 考えていません。賦課金を値上げしないで如何にして組合運営を良い方向へもっていくかを考えています。

木村委員長 支出を抑えていくということですね。それでは各担当副理事長から、それぞれの事業運営に対する抱負をお願いします。

広報委員会及び経済研究会

姫野正弘副理事長 基本的な方針は、大村理事長がリーダーシップを発揮して、東京の大所帯を1つにまとめて頂いて、この1年で大変な成果を上げたと思っています。私は広報担当の立場からすると、暫定基準の問題で環境プロジェクトが活動し、国会の場でこの問題が取上げられました。そのビデオを見てめっき業者としては非常に感動する有意義な発言を国会の場で頂きました。めっきが基幹産業で、ものづくりになくてはならないことを

小池環境大臣、中川経産大臣から発言を頂いたことは、めっき業界の歴史に残るもので、イメージ的にもめっき業界が表舞台に出たという感じで非常に大きな成果であったと思います。これは全国のめっき業界のためにやったことで、ある部分では高く評価されると同時に、東京組合の広報誌が取上げて、広報が各公設機関や各単組にも配布されていることからその反響の大きさに、戸惑いとともに責任の重大性を痛感した次第です。広報で活字になると、こうも反響を呼ぶのかと驚きました。わたしの意見が私でなくなることがあるので、今後については委員長、副委員長、各委員さんをお願いして一言一句厳密なチェックしながら発行していきたいと考えています。

木村広報委員長 私も広報委員長として十分に注意していきたいと思います。続けて経済研究会の方をお願いします。

姫野副理事長 東京組合は自民、公明、民主とあらゆる政党に、我々めっき業界の実情を訴えています。ある時は行政側と話し合いをさせて頂くなどかなり積極的に活動してきました。通常では国家の大臣クラスにはなかなかお目通しが許されませんが、我々が直接関係している国土交通省、環境省、経済産業省と大臣を交えて直接お話ができたことは経済研究会のお蔭であると思っています。

総財務委員会の課題

木村広報委員長 次に由田副理事長をお願いします。

由田猛副理事長 今期の総財務委員会の運営方針ですが、大村理事長が申されておりますように、今期は組合脱退者につきましては、従来より減少傾向になって来るとは思われますが、やはり20社前後の脱退者はあるものと予想されます。この出資金の受け皿対策が今期も大きな課題の一つであります。そこで短期的には今期改めて脱退者の出資金受け皿対応策を検討してまいります。そして今後数年

暫らくは減少傾向が続くことが予想されますので、中長期的にはこの出資金の受け皿対応と、健全な組合運営を進めて行く為のシュミレーション策定について更に煮詰めて行きたいと考えております。

また、めっきセンター改修工事につきましては、老朽化箇所の修復を第一に考えて、センター維持積立金の財源を基本として実施して行きたいと考えております。

また、昨年は役員退任記念品支給につきましては、今までの分を全て一旦清算させて頂きましたので、今後につきましては改めて時代に合った支給方法、記念品の額等について規定の見直しを図ってまいります。

いずれにしても今後暫らくは厳しい組合運営を強いられることが予想されますので、事務局運営に置きましても、更なるコンピューターの活用を進めて、組合運営の効率化と経費削減対応を図って行きたいと考えております。

環境問題

木村広報委員長 次に環境担当の川上副理事長をお願いします。

川上洋一副理事長 今回、ほう素、ふっ素等の暫定基準の延長に関して、経済産業省においてめっきの重要性を認めてくれたこと、ほう素、ふっ素の処理が難しいことを認めてくれたことは大きな意義があることだと思います。いままでシアン、クロムにしても規制される前に処理技術が確立されていましたが、今回のほう素、ふっ素は暫定を頂いても処理技術が確立されていない。これに対して環境委員会の立場は、データを集めて環境プロジェクトに提供し、運動する資料を集めるのが課題です。



また水生生物の保護ということで亜鉛の規制強化問題がありますが、現状からすると下水道の中にミジンコがいるわけがなく、下水道地域くらいは従来通りにしてほしいと思います。また下水道局さんが立入検査したほう素、ふっ素、亜鉛のデータを組合員みなさんから提供して頂きたいと思います。その分析データは貴重なものです。ほう素、ふっ素がどのくらい出ているか、代替品があるのか、どうしてもその薬品を使用しなければ仕事が出来ない問題もあり、そうしたことを訴えていくことが重要だと思います。

土壤汚染問題が一番大きな問題だと思います。土を入れ替えなくて済むような方法、固化とか、クロムなら対応する除害薬品を入れればよいとか簡単な処理方法を開発して頂かないと土地の値段が下がって担保にもならない。そうすると設備投資もできなくなります。土壌の入替えでは、取り除いた方はよいが、搬出先は汚れるわけで、結局土壤汚染の拡散にすぎないのではないかと思います。

公防協組の運営

間部健太郎副理事長 さきに理事長が言われたように昨年度公防協組は良い決算が出来ましたが、その要因は有価金属の売却です。今年度の運営に当たっては総代会に提出した平成16年度事業計画に沿って運営していきます。中でも環境保全事業は将来性のある事業です。組合の枠にとらわれない営業活動をしていきたいと思っています。それには人材の育成が必要で、安全確実な処理を継続して、安心して組合事業を利用して頂けるような環境作りに努力していきます。同時にしっかりとした環境管理システムを確立して、組合員のみなさんに納得のいくサービスをさせて頂きたいと思っています。

木村広報委員長 理事長が設備の老朽化に伴い修理をしていくという話ですが、その資金手当をどう考えていますか。

間部副理事長 財務面の説明をしますと、平成5年、6年に設置した設備の減価償却を本則の7年に戻しまして、平成15年度決算において償却しました。平成4年の設備も本年2月に償却が完了しましたので、平成16年度の決算では償却が大幅に減りますので損益が改善出来るのではないかと期待しています。さらに財務体質の強化、利益の確保を図っていきたくて考えています。

木村広報委員長 組合員の減少に伴ってシアン廃液の集荷量の落ち込みはどうか。

間部副理事長 予算では予め落ち込みを見込んだ量を計上していますから、予算上全く問題がありません。最初から落ち込みを折り込んでおり損益のく ruim もそれほどないと思います。その他、現有処理施設は10年くらい経っていますが、規制対象物質の増加、規制値の強化等により、処理依頼も色々な種類に及んでいます。ところが現有施設では対応出来ない困難な廃液もあります。現在提携先とネットワークを組みながら対処していますが、政令指定都市が増えており、処理に当たっては事前協議が必要になったり、従来の枠組みでは処理依頼に応えることが出来ない状況となっています。そこで新たな処理システムに革新していきたいと考えています。さらに、今後は環境事業が拡大が望める市場となっています。マクロ的に13兆円の市場といわれ、経済産業省は2025年には約80兆円の市場規模になると言っており、昨年から経産省の関係団体の(財)造水促進センターが汚泥中の有価金属を回収しようという開発委員会を発足させましたので当協同組合から小原専務が委員として参画して、色々な情報を取りながら新しい事業展開を模索していきたいと思っています。

小原俊幸専務理事 いま都市鉱山という考え方があります。廃棄物は色々な有価物を含んでいる鉱物資源であるという考えです。亜鉛はあと32年くらいしか鉱山資源がないから

都市から回収しているという経産省の方針に沿ってスラッジからとってこういうことですがなかなか難しいと思います。



間部副理事長 そのほか、現状で抱えている問題としては、シアン含有汚泥の処理、硫化水素対策、土壤汚染処理などの研究開発をしていきたいと考えています。また、職員の研修も必要なことで、見聞を広めるため6月に日曹金属会津工場を見学します。7月には運営委員会と職員のみなさんと2日間にわたり、ミヤマさんの長野工場2ヶ所、新潟工場2ヶ所の視察研修を計画しています。

技能教育委員会の課題

木村広報委員長 技能教育委員会担当の八幡副理事長をお願いします。

八幡順一副理事長 恒例の技能検定は7月24、25日と行いますが、今年も受検者が多くなっています。これまで2日間でこなしてきましたが、これ以上受検者が多くなると日程的な問題が出てきます。今年度は1級6名、2級60名、3級2名の計68名で、なんとか2日間でこなしますがもう限界で、これ以上受検者が増えたり、1級受検者が多くなると2日間でこなすのは難しくなります。大勢の受検者があることは喜ばしいことですが、反面その対応が難しくなっています。ベテランの委員さんにやって頂いていますが、各委員さんは各社現場の第一線に出ています。しかもいまぎりぎりの人員で仕事をしていますから、平日を含めて3日かけてやることはできません。今度人数が増えた場合の対応も予め想定しておかないといけないと思います。また、国がものづくりに力を入れており、職業能力開発協会も熱心ですが、専門校の人たちに3級を受検させるようになりますと、嬉しい反

面、また対応が苦しくなります。

今年の課題として2年に一度の訓練校卒業生を対象にしたフォローアップ事業が10月23日に行われます。同窓会とい



うと語弊があるかもしれませんが、修了生を送り出しっぱなしではなく横の連絡をとって親睦を深め、コミュニケーションをはかることが大事だと思います。せっかくめっき業界に入って、基礎を学んだのですから、卒業後もさらに成長して頂くよう横の連絡がとりやすいようにやっていきたいと思います。

今後の課題として、先生方の中でも高齢の方がいます、高齢だからだめということはありませんが、人間いつまでも出来るというわけにはいきませんから、訓練校を継続運営していくためにも講師の先生方の確保が今後の課題となっています。幅広く各界の先生方をお願いしていかないといけないと考えています。

半田広報副委員長 色々な活動方針とそれに対する抱負を聞かせて頂きまして有り難うございました。

都中央会副会長就任を祝う会

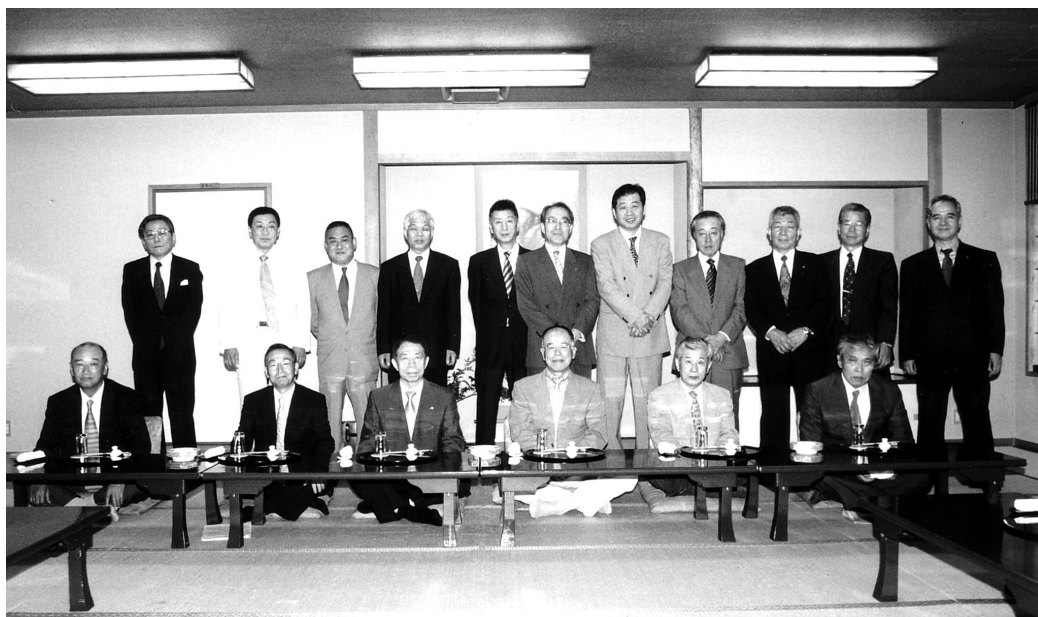
東京都鍍金工業組合・大村功作理事長が去る5月13日の東京都中小企業団体中央会の通常総会において副会長に選任され、工業組合の副理事長、常任理事有志による都中央会副会長就任を祝う会が6月10日(木)午後6時から港区芝浦の「牡丹」で開催された。

はじめに発起人を代表して姫野正弘副理事長は「大村理事長が中央会副会長に就任され、意義ある会を行いたいと急きょ常任理事以上のみなさんにお呼びかけしたところ大勢のご参加を頂き感謝申し上げます。大村理事長には公私共に多忙となるが、我々執行部としてもきちんと補佐していけるよう協力をしていきたい。都中央会は2,168団体445,000事業所が所属している大きな組織で、吉川元理事長が副会長を務めた経緯があり、それ以来の要職である。大変多忙となるが、健康に充分留意させて頂きご活躍を頂きたい」と挨拶した。

大村理事長は「2年前都中央会専務理事が訪ねてきて、常任理事を引き受けてくれないかと依頼があり、お引き受けした。第1回役

員評議員会に出席したところ、6委員会の中から労働委員会委員長を受けることになった。労働委員会は年3回くらい、そのほか東京都と労働省と労働組合関係者との四者会談が年1～2回あり、そして2年経過して総会を迎えて今度は副会長を受けてもらえないか要請があった。会長も80を過ぎ、副会長も高齢化して若返りを図りたい。また鍍金組合は都内2100組合の中でも大きな力を発揮する組合ということで推薦された。当組合のためにもなるということでお引き受けした。いま姫野副理事長から大変忙しいという話があったが、みなさんのご支援ご指導をお願い申し上げます」と挨拶した。

川上洋一副理事長は「中央会副会長という素晴らしい役職を仰せつかり、鍍金組合だけでなく中小企業の育成、引いてはめっき業界の振興発展に寄与するもので、健康に留意されて頑張ってください」と述べて乾杯の音頭を取った。祝宴は由田猛副理事長の中締めまでなごやかに進められた。



全鍍連総会

全国鍍金工業組合連合会(笹野不二夫会長)は5月26日(水)午後1時から港区芝公園の機械振興会館で平成16年度通常総会を開催した。

笠間則文総務委員長の司会で開会、先輩物故者へ黙とうを捧げ、鈴木喜代壽副会長の開会の挨拶の後、主催者を代表して笹野会長は、平成15年度事業として中小企業経営革新支援法に基づく経営基盤強化事業と取組み相応の成果を上げたこと、さらに平成16年度の課題としてほう素、ふっ素等の処理や土壤汚染問題などについて挨拶した。

総会に先立って岸賞表彰が行われ、約10年間全鍍連専務理事を務めた上野顕三郎氏が受賞された。

笹野会長が議長となって議案の審議に入った。第1号議案「平成15年度事業報告、財産目録、貸借対照表、収支計算書及び余剰金処分案」について上野専務理事が説明、三浦修市監事が監査報告を行い、拍手で承認された。次いで第2号議

案「平成16年度事計画案、収支予算案」と第3号議案「平成16年度経費賦課及び徴収方法」について原案通り承認された。

第4号議案「役員退任及び役員選任」について、上野専務理事と富山組合の梅田秀雄理事長の退任に伴い新役員を選任するもので、指名推薦の方法をとることとし、役員候補者選考委員会の山崎五郎委員長が上野氏の後任専務理事候補者として、元経済産業省、現白島石油備蓄(株)取締役総務部長の布袋屋皓造(ほていやこうぞう)氏を、梅田氏の後任理事候補者として富山組合から推薦のあった同組合理事長の藤清貴氏の選任を報告、承認された。また、退任の上野、梅田両氏を全鍍連顧問に委嘱することを承認し、議事を終了した。退任する上野、梅田両氏に感謝状及び記念品が贈呈され、新しく専務理事に就任した布袋屋氏と新理事に就任した藤氏から就任挨拶があり、原互副会長が閉会の辞を述べて総会を終了した。このあと懇親パーティを行った。



全鍍連専務理事就任の布袋屋氏

布袋屋皓造氏は、秋田県出身の昭和 15 年 12 月生、昭和 39 年秋田大学鉱山学部卒業後、44 年通商産業省入省（東京通商

産業局平石炭支局）、平成 10 年中部近畿鉱山保安監督部長辞職後、白島石油備蓄（株）取締役総務部長に就任した。



経産省非鉄金属課長に中山氏

このほど経済産業省製造産業局非鉄金属課の青山課長が替わり、新しく中山亨氏が就任した。中山氏は昭和 34 年 6 月 5 日生れの東京都

出身。昭和 59 年東京大学大学院機械修了後、同年 4 月通商産業省入省した。



平成 16 年度全国めっき

技術コンクールの開催

全国鍍金工業組合連合会は恒例の全国めっき技術コンクールの開催に当たり、参加者を募集する。

主 催 全国鍍金工業組合連合会

後 援 （予定）厚生労働省、東京都、中央職業能力開発協会、日刊工業新聞社

種 目 1) 研磨－装飾クロムめっき部門

2) 装飾クロムめっき部門

（注）無研磨

3) 亜鉛めっき部門

（注）無研磨

参加料 1 部門 1 口につき 1 万円（1 部門につき 3 口まで応募可）

（訓練生（東鍍工組高等職業訓練校、大阪高等めっき技術訓練校）の参加の場合、参加料 1 部門 1 口につき 7 千円）

申込〆切 平成 16 年 8 月 6 日（金）

出品〆切 平成 16 年 8 月 13 日（金）

入賞発表&表彰式 平成 16 年 11 月 25 日（木）全鍍連第 42 回全国大会において

（予定）厚生労働大臣賞・厚生労働省職業能力開発局長賞・中央職業能力開発協会会長賞・日刊工業新聞社賞・全国鍍金工業組合連合会会長賞

問合先 全国鍍金工業組合連合会事務局／佐藤・山本（TEL03-3433-3855）

〒105-0011 港区芝公園 3-5-8
機械振興会館 206

東鍍工組第7回親睦ゴルフ大会

東京都鍍金工業組合第7回親睦ゴルフ大会が7月4日(日)、茨城県的美浦ゴルフ倶楽部で、各支部組合員、材料協組、機材メーカーの参加を得て、総勢 112 名で盛大に開催された。

朝 8 時 30 分開会式を行い、神谷博行実行委員、高倉利守競技委員長からルール(新ペリアル方式)等の説明があり、記念写真を撮影した。8 時 50 分からイン、アウトコースそれぞれ 4 人 1 組でスタートした。

午後 4 時、各組のプレー終了、クラブハウスで成績発表とパーティを行った。遠藤清孝実行委員の司会により、はじめに大村功作理事長は「今日は素晴らしい天気とコースに恵まれ、みなさん満足されたのではないかと思います。私も少し疲れたが、楽しいゴルフをさせて頂いた。第

1 回は瀬田理事長の時代、私が実行委員長をさせて頂いたのが始まりである。当時景気が悪いこともありゴルフ大会に反対もあったが、親睦行事ということで開催し、今回 7 回を数え、年々盛大に楽しく親睦を深める行事となっている。今回初めて美浦ゴルフを使ったが、コースが代わったことも良かったと思う。来年、再来年へと続けていきたい」と挨拶をした。

姫野正弘実行委員長は「みなさんのご協力により盛大にゴルフ大会が開催されることを厚くお礼申し上げる。実行委員のみなさんには当倶楽部に数回足を運んで下見をし、パーティも座ってゆっくり歓談できるよう設定した。実行委員のメンバーには色々なところで支えて頂き感謝申し上げます。景気も大変暗い時代が長く



続いたが、ようやく底を打って上昇基調になっている。ゴルフで同業者のみなさんと親睦を深めることが出来たのが何よりで、今後も益々発展出来るようご協力をお願い申し上げます」と挨拶した。

由田猛副理事長は「第7回ゴルフ大会が百名以上の参加により不景気を吹き飛ばすように盛大に開催された。東京組合の力が結集できたということで、今後の発展の原動力になると思う」と述べ、間部健太郎副理事長とともに乾杯の音頭をとった。

なごやかな懇親会のなかで成績発表が行われた。個人戦・団体戦の成績は別掲のとおりで、個人戦では原口哲洋氏(足立支部(株)小澤鍍金工業)が優勝、コシヒカリ3俵を獲得した。団体戦は上位5名のスコアで争われ、西部支部が優勝。シニア(65歳以上)では石川輝夫氏(葛飾支部(株)ヒキフネ)が優勝、レディース優勝は



(個人戦で優勝した原口哲洋氏)

姫野郁江氏(西部支部・京王電化工業(株))、そのほか、上位10位、20、30、40位等の飛賞、正副理事長賞、ベスグロ荒川竹治氏(中央支部)、ブービー木村秀利氏(城南支部)、ブービーメーカー藤田直人氏(品川支部)、ニアピン、ドラコン、ドラタンなど各賞品が贈られた。最後に川上洋一副理事長、八幡順一副理事長が中締めを行い、大会を終了した。



第7回親睦ゴルフ大会・個人・団体戦の成績

個人戦順位			GROSS	DHCP	NET
優勝	原口 哲洋	足立	87	18.0	69.0
2位	石川 輝夫	葛飾	92	20.4	71.6
3位	姫野 郁江	西部	94	21.6	72.4
4位	高橋 利行	城西	81	8.4	72.6
5位	酒巻 正明	本所	74	1.2	72.8
6位	久力智恵子	材料	84	10.8	73.2
7位	小林 清志	西部	84	10.8	73.2
8位	藤田 嘉雄	城南	90	16.8	73.2
9位	斉藤喜久夫	城南	90	16.8	73.2
10位	岡 正典	西部	77	3.6	73.4
11位	矢野 尚武	葛飾	89	15.6	73.4
12位	小西 博文	城南	89	15.6	73.4
13位	荒川 竹治	中央	73	-1.2	74.2
14位	高村 昌利	西部	90	15.6	74.4
15位	安西健一郎	本所	90	15.6	74.4
16位	大村 功作	城南	96	21.6	74.4
17位	久保 和克	城西	88	13.2	74.8
18位	中山 博司	本所	100	25.2	74.8
19位	滝本 正二	城西	100	25.2	74.8
20位	小澤 雅良	足立	100	25.2	74.8
21位	植松 勉	機材	93	18.0	75.0
22位	間宮 勝	材料	99	24.0	75.0
23位	遠藤 典夫	城東	99	24.0	75.0
24位	小口順一郎	大田	86	10.8	75.2
25位	狐塚 保之	葛飾	92	16.8	75.2
26位	磯村 博明	足立	98	22.8	75.2
27位	小松 康宏	材料	85	9.6	75.4
28位	遠藤 清孝	城東	83	7.2	75.8
29位	志田 晴彦	大田	89	13.2	75.8
30位	成瀬 邦彦	西部	95	19.2	75.8
31位	倉沢 輝行	城東	88	12.0	76.0
32位	高橋 憲一	城西	94	18.0	76.0
33位	間部健一郎	中央	86	9.6	76.4
34位	沼尻 清	城北	92	15.6	76.4
35位	近藤 忠治	葛飾	85	8.4	76.6
36位	斉藤 和久	城北	85	8.4	76.6
37位	木村 壽	材料	85	8.4	76.6
38位	間部健太郎	中央	85	14.4	76.6
39位	角田 洋久	西部	91	14.4	76.6
40位	西山 安次	葛飾	91	14.4	76.6
41位	上村 福子	材料	97	20.4	76.6
42位	高倉 利守	品川	84	7.2	76.8
43位	戸塚 秀孝	城西			
44位	新井嘉喜雄	城東			

45位	大和田昌宏	城北			
46位	金子 俊明	大田			
47位	岩井 孝之	向島			
48位	中嶋 規夫	西部			
49位	関根 征子	葛飾			
50位	元井 民夫	城西			
51位	横尾 成郎	材料			
52位	石川 芳英	足立			
53位	由田 猛	城西			
54位	大沢 俊孝	大田			
55位	縄田 敏治	足立			
56位	下平 誠	中央			
57位	関根 利定	葛飾			
58位	内藤 隆夫	大田			
59位	大木美津男	向島			
60位	深田 稔	向島			
61位	兼子 雅章	西部			
62位	杉江 一郎	向島			
63位	菅野 勝靖	品川			
64位	今泉 好隆	城北			
65位	佐久間栄子	向島			
66位	大下 孝義	材料			
67位	鈴木 厚生	材料			
68位	太田 良江	葛飾			
69位	谷口 光洋	城南			
70位	姫野 正広	西部			
71位	望月 英彦	大田			
72位	並木 秀幸	城南			
73位	石川 英孝	葛飾			
74位	岩井 春治	向島			
75位	岩永 和昭	西部			
76位	石川 茂夫	本所			
77位	菊地 利夫	城西			
78位	山田英佐夫	本所			
79位	中澤 敏明	城南			
80位	佐久間隆太郎	向島			
81位	永安 裕之	城西			
82位	小澤 栄男	足立			

83位	石田 昌久	向島	107位	志田 和陽	大田	N P	兼子 雅章	西部
84位	新井 浩二	城西	108位	広根 淳一	葛飾		中嶋 則夫	西部
85位	宮川 容子	大田	109位	八幡 順一	城東		藤田 嘉雄	城南
86位	海野 吉正	城北	110位	小嶋 撰郎	中央		小口順一郎	大田
87位	田中 秀和	城西	111位	木村 秀利	城南		山田英佐夫	本所
88位	篠崎 賢吾	向島	112位	藤田 直人	品川		久力智恵子	材料
89位	豊田 静雄	城東					石川 輝夫	葛飾
90位	太田 幸一	葛飾	B G	荒川 竹治	中央	シニア優勝		
91位	小島 一浩	足立	D C	姫野 郁江	西部		石川 輝夫	葛飾
92位	宍戸富士男	城北		中嶋 則夫	西部	レディース優勝		
93位	伏原 明人	城南		斉藤 和久	城北		姫野 郁江	西部
94位	小山 六男	材料		斉藤 弘	中央	団体戦順位		
95位	江原 一美	大田		鈴木 厚生	材料	優勝	西部支部	
96位	永田 一雄	足立		植松 勉	機材	2位	城南・品川支部	
97位	川上 洋一	大田		戸塚 秀孝	城西	3位	葛飾支部	
98位	柴田 徹	葛飾	D T	新井嘉喜雄	城東	4位	城西支部	
99位	神谷 博行	葛飾		新井 浩二	城西	5位	足立支部	
100位	野田 光昭	本所		小島 一浩	足立	6位	本所支部	
101位	山口 康	西部		斉藤 弘	中央	6位	大田支部	
102位	石田 義勝	城西		小林 清志	西部	8位	城東支部	
103位	小澤 陽子	足立		石川 芳英	足立	9位	向島支部	
104位	岡本 博司	本所		藤田 直人	品川	10位	中央支部	
105位	斎藤 弘	中央		山田英佐夫	本所	11位	城北支部	
106位	川上 節子	大田						

第7回親睦ゴルフ大会収支予算

収入の部		支出の部	
前回繰越金	38,815 円	パーティ費	420,000 円
会費 5,000 円×114 名	570,000 円	(料理・飲み物 114 名)	
正副理事長 10,000 円×6 名	60,000 円	賞品代合計	518,000 円
各支部より 10,000 円×12 支部	120,000 円	(各順位賞品)	317,000 円
参加材料組合・機材工	50,000 円	(参加賞)	201,000 円
日本鍍金材料協同組合	20,000 円	その他合計	40,815 円
関東めつき健康保険組合	10,000 円	(チップ代)	29,000 円
関東鍍金工業厚生年金基金	10,000 円	(写真代)	10,000 円
東京都鍍金工業組合	50,000 円	(雑費)	1,815 円
東京鍍金公害防止協同組合	50,000 円		
合計	978,815 円	合計	978,815 円

■十日会 6 月例会

福井電化工業(株) 見学

日本鍍金協会・十日会(斉藤晴久会長)は6月5日(土)午後1時30分から会員22名が参加して会員企業の福井電化工業(株)(千葉県市川市千鳥町11 福井順子社長)の工場見学会を行った。

はじめに福井順子社長が会社概要を説明して頂いた。それによると、同社は3つのセクションがある。1つがボタン事業部で金属ボタンを中心にめっきしている。2つ目は新製品開発事業部、かねてゴルフシャフトの工作在大きなウエイトを占めていたが、これがカーボンに変わり、そこで小さな手動のバレルのラインを作り、量産では対応できないものを加工するセクションを作った。3つ目は金属バットをメインとするスポーツ用品事業部。以前はスキースtockと金属バツ

トを扱っていたが、スキーがスノーボードに変わり、バブルも崩壊してスキースtockの方はダウンした。その代わりに松井選手らの活躍でオールシーズン、金属バットの仕事が入るようになった。

ボタン事業部であるが、世界ブランドの衣料のボタンはすべてニッケルフリーめっきである。そういう関係でニッケルフリーの金属ボタンの仕事が多くなっている。ニッケルフリーは液の管理が難しく、あちこちでトラブルが多い状況で、よい製品を納品していく中で受注量を増えており、いま、やり切れないほどの仕事を頂いている。衣料品は検針器を通すが、ニッケルめっきだと鳴ってしまう。その対策として非磁性の無電解ニッケルが採用されたが、それもニッケルフリーに代わった。世界ブランドを相手にしている企業は色々な在庫を抱えるのは大変だからとニッケルフリーに統一してしまうという傾向がある。当社のニッケルフリーめっきは銅、錫合金めっきを採用し



ており、PWPめっきと呼んでいる。最初のラインを作ってから需要が多くなり、同じラインを増設した。これは昨年の正月にスイッチオンしたもので、ドイツ製バレル。ドイツから空輸し日本で組立て設置したが、価格は日本製より安かった。他のラインにもドイツ製バレルが入っている。

ニッケルめっきは、バブル期まで大型バレルを使い、前処理ラインや銅めっきラインとも繋げて一貫生産していた。バブル以降は中型のバレルに変え、各ラインを独立させ、色々な対応が出来るように変えた。

新製品開発事業部は、この品物に合っためっきをどうしたら付けられるか、バレル自体の大きさや穴の大きさなど、バリエーションを変えたバレルを数多く取り揃えた。手作りのラインなので設備コストがかからない。極小の品物や電子部品などで尖がっていて曲がりやすい品物などを、ネットを張った小さなバレル等で処理している。

スポーツ用品事業部は、カラフルである。金属バットはアルマイト・塗装と印刷の組合せで加工している。日なたに置きっぱなしで雨にも濡れるという条件で、剥がれず長持ちし、しかもきれいな仕上りを顧客に提供している。高級品の金属バットではかなりのシェアを占めている。他に印刷や研磨と組み合わせて色々なデザインを生み出すことが出来る。

当社は新製品開発事業部以外は装飾めっきが中心だが、得意先の品物にお化粧することによって高く売れて喜んで頂ける、そういうことを念頭において事業を展開している。

業団の援助のもと、福井通祐会長が中心になり市川のめっき事業所6社で建設した。排水処理設備も6社共同である。東京湾のそばに位置し、東京湾から運河が引いてあり、運河がそのまま皇室のご猟場に繋がっている。当地へ移転したとき国の規制値の10分の1に排水を処理しなければ団地を建設してはいけないということで、会長も随分苦労したと聞いている。オープニングセレモニーには漁民の方たちが押しかけ、市の助役さんと会長が排水処理された水を飲んで帰って貰ったという経緯もあると聞いている。

工場内見学後、十日会発足時のメンバーである福井通祐会長から、会社の沿革や苦労話を頂いた。それによると、同社は会長の父親が大正13年に東京都墨田区内で創業した。戦後、量産物を手がけ、ゴルフシャフトを月60万本めっきした。バブルが崩壊して成長経済が衰退経済に変わった。量産の仕事をしてきたものは細かい仕事はできない。ゴルフシャフトの仕事がゼロになって、3年間赤字が続き苦労したが、シャフトのラインを廃棄して自家製のハンドバレルを設置し、いくらか売上を上げることができた。ボタンも自動機で行っているが、毎月売上が落ちて苦労したことがある。めっきは錆びないために行うが、お客さんの要望により、さびたようなめっきをつけてお客さんに喜ばれた。

最後に見学者1人1人から見学の感想発表があり、見学会を終了した。

■十日会

5月例会

日本鍍金協会・十日会(斉藤晴久会長)は5月17日(月)午後7時からめっきセンターで例会を開き、組合環境科学研究所の志賀孝作所長が「ほう素・ふっ素排水対策について」を講演、会員38名が聴講した。

梅田伊三夫幹事の司会で開会し斉藤会長は「多数の参加を頂き感謝申し上げる。昨日会員14名が参加し茨城の美浦CCでゴルフコンペを開催、平和工業の内藤さんが優勝したが楽しい1日であった。新聞をみると、デジタル家電や自動車メーカーが好決算を発表している。民間の設備投資も大幅増と製造業の回復基調が本物になりつつあるのかと思われるが、ただ経済状況が良くなっても我々めっき業界は環境規制などもあり厳しい状況である。今回ほう素、ふっ素の暫定基準が延長となったが、各社悩みながら対策を考えていると思う。志賀環研所長の話进行参考にして頂きたい」と挨拶した。

新会員として(有)上原メッキ工業の上原裕司氏の紹介があり、講演に入った。講演概要は次の通り。

先般、組合でメーカー8社の排水処理講習会を聴講した。ほう素ふっ素等の暫定基準が70mg/lから50mg/lで3年間延長されるが、3

年間で解決できるか大きな課題である。まず一般的にふっ素はとれるが、ほう素はとれないといわれるが、環研の分析では、ほう素が仮に10mg/lでもこれを超えるケースは少なく、ふっ素は70でもこれを超えているケースがみられる。

メーカー8社の処理技術はいずれも完璧なものではなく、机上のピーカーテストが主で単一のふっ素だけなら良い結果が得られたとしても、果たして現場で色々なものが入った状態で、机上のデータ通りにならないのではないかと思った。

各社の説明を聞いて、スラッジ量が多くなる事、処理費用が高くなる事を感じた。組合環境委員会でも3年間でデータを集めて対応をしていくことにしている。3年はすぐに過ぎてしまうので今から対応が必要である。

みなさんも実験して解ったこと、うまくいった事例があれば組合にデータを提供して頂きたい。





暑中お見舞い申し上げます

株式会社 都南ビーピー 代表取締役 大村 功作 本社 東京都目黒区上目黒4-5-1 工場 東京都目黒区上目黒2-45-12 〒153-0051 TEL 03(3719)8221 FAX 03(3760)9027	京王電化工業株式会社 代表取締役 姫野 正弘 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘3-6-1 TEL 0424(83)1900
株式会社 協和 代表取締役社長 由田 猛 本社 東京都豊島区東池袋1丁目7番12号(日産ビル) 〒170-0013 TEL 03(3986)1591(代) FAX 03(3988)8923 工場 高崎第1・高崎第2・川越・シンガポール マレーシア・タイ・中国	合資会社東亜鍍金工場 代表社員 川上 洋一 〒146-0093 東京都大田区矢口2丁目32番7号 TEL 03(3759)3446(代)~8 FAX 03(3759)3448
株式会社 入谷電鍍所 代表取締役社長 間部健太郎 〒110-0012 東京都台東区竜泉1丁目9番3号 TEL 03(3875)6146(代) FAX 03(3875)6149	八幡鍍金工業株式会社 代表取締役 八幡 順一 本社 東京都江戸川区平井5丁目20番9号 〒132-0035 TEL 03(3617)7707 FAX 03(3617)7709 篠崎工場 東京都江戸川区篠崎町3丁目33番11号 〒133-0061 TEL 03(3670)2120 FAX 03(3670)2062
有限会社 朝日鍍金工場 代表取締役 遠藤 清 専務取締役 遠藤清孝 〒132-0025 東京都江戸川区松江4-20-11 TEL 03(3653)3431 FAX 03(3652)2225	有限会社 元井鍍金工場 代表取締役 元井 民夫 〒171-0044 東京都豊島区千早2丁目37番4号 TEL 03(3973)0056(代) 03(3973)0057~8 FAX 03(3974)7324
木村鍍金工業株式会社 代表取締役 木村 秀利 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-12-3 TEL 03(3491)7653 FAX 03(3491)4074	株式会社 歓 鍍 金 代表取締役 中澤 敏明 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-34-2 TEL 03(3441)4910 FAX 03(3441)4640

暑中お見舞い申し上げます



株式会社 トーテック

代表取締役 小谷野 英勝

本 社 東京都目黒区下目黒2丁目13番7号
〒153-0064 TEL03(3493)0231 FAX03(3779)5296
千葉事業所 千葉県香取郡東庄町宮野台1-50 東庄工業団地
〒289-0623 TEL0478(87)1120 FAX0478(87)1018

藤田鍍金工業株式会社

代表取締役 藤田 直人

〒140-0004 東京都品川区南品川4-17-16
TEL03(3474)3563
FAX03(3474)3548

有限会社 伊豆鍍金工業所

取締役 原 清一

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-5-1
TEL03(3493)0308(代)
FAX03(3491)8795

平和工業株式会社

代表取締役 内藤 雅文

本 社 東京都大田区京浜島2丁目2番4号
〒143-0003 TEL03(3790)1031(代) FAX03(3790)2828

株式会社 池田車框製作所

代表取締役 池田 潤一

〒143-0016 東京都大田区大森北5-9-17
TEL03(3761)0677
FAX03(3767)8645



有限会社大森広尾鍍金工場

専務取締役 志田 和陽

〒143-0014 東京都大田区大森中1丁目11番5号
TEL03(3761)4946
FAX03(3761)4991

株式会社 篠根鍍金

代表取締役 篠根 健一

本 社 東京都荒川区東尾久2丁目9番1号
〒116-0012 TEL&FAX03(3895)1759
工 場 埼玉県草加市稻荷2丁目12番6号
〒340-0003 TEL0489(31)7675 FAX0489(31)2407

有限会社 平野メッキ工場

代表取締役 平野普三雄

〒116-0012 東京都荒川区東尾久2-3-7
TEL03(3895)5902 FAX03(3809)1966
三郷工場 埼玉県三郷市彦江1-71-1
〒341-0058 TEL048(953)2301 FAX048(953)2302

有限会社 上原メッキ工業

代表取締役 上原 裕司

〒334-0063 埼玉県川口市東本郷764-8
TEL048-282-1590
FAX048-282-3567
E-mail:hirosiu@muh.biglobe.ne.jp

有限会社富士友工業所 ＝貴金属メッキ各種＝

代表取締役 下平 誠

〒110-0013 東京都台東区入谷1丁目33番10号
TEL03(3872)4781
FAX03(3871)5959



暑中お見舞い申し上げます

株式会社小嶋メッキ工業所 代表取締役社長 小嶋 摂郎 〒111-0053 東京都台東区浅草橋5丁目10番10号 TEL03(3851)5870(代) FAX03(3851)5882	株式会社 梅田鍍金工業所 代表取締役 永田 一雄 〒123-0851 東京都足立区梅田3-16-1 TEL03(3880)1271 FAX03(3889)8530 k-nagata@courante.plala.or.jp
株式会社八神化学工業所 代表取締役社長 永田 吉輝 〒123-0856 東京都足立区本木西町8-25 TEL03(3890)4236 FAX03(3890)4238	東京都鍍金工業組合 足立支部 常任理事 小澤 栄男 支 部 長 永田 一雄 副支部長 細井 碧 副支部長 石川 和男 副支部長 橋本 英雄 副支部長 磯村 博明 〒123-0851 東京都足立区梅田3-16-1(株梅田鍍金工業所内) TEL03(3880)1271 FAX03(3889)8530
光陽鍍金株式会社 代表取締役 菊池 忠男 〒124-0001 東京都葛飾区小菅3-15-11 TEL03(3602)6815 FAX03(3603)1718	神谷電化工業株式会社 代表取締役 神谷 博行 〒124-0012 東京都葛飾区立石2-18-8 TEL03(3695)1304 FAX03(3695)1346
株式会社 ヒキフネ 株式会社 ヒキフネ技研 取締役会長 石川進造 代表取締役社長 石川輝夫 〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木2-4-12 TEL03(3696)1981 FAX03(3696)4511 http://www.hikifune.com	大日工業株式会社 代表取締役 小倉 攻一 〒124-0011 東京都葛飾区四つ木5-16-11 TEL03(3691)9501 FAX03(3691)9504
東京都鍍金工業組合 向島支部 支 部 長 石田 昌久 副支部長 仲俣 雅行 副支部長 向坪 昭 副支部長 大場 章司 副支部長 深田 稔 役員 一同 〒131-0043 東京都墨田区立花5-17-17 TEL03(3617)5779 FAX03(3614)5653	有限会社 亜鉛鍍金工業西谷 回転アエンメッキ専門 代表取締役 西谷 幸一 〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5丁目26番6号 TEL03(3697)1484 FAX03(3697)3593

暑中お見舞い申し上げます



新東 株式会社 代表取締役 石田 昌久 〒131-0043 東京都墨田区立花5-8-2 TEL03(3611)8251 FAX03(3617)7102 E-Mail:Shinto@mekki.co.jp URL:http://www.mekki.co.jp	東京都鍍金工業組合 本所支部 支 部 長 山田英佐夫 副支部長 岡本 博司 副支部長 在間 茂夫 副支部長 酒巻 正明 副支部長 横山 昇 役員 一同 〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋3-10-9(株東電工舎) TEL03(3622)8111 FAX03(3622)8107
有限会社半田鍍金工業所 代表取締役 半田 實 〒189-0011 東京都東村山市恩多町5-43-14 TEL042(393)0960 FAX042(398)1977	東京都鍍金工業組合 西部支部 支 部 長 西原敬一 副支部長 柴 太 役員 一同 〒184-0004 東京都小金井市本町1-7-1 SS ビル TEL042(384)4718 FAX042(382)8195
高砂電鍍工業株式会社 代表取締役 高村 昌利 〒187-0032 東京都小平市小川町2-1972 TEL042(341)3380 FAX042(343)4582 URL:http://www.takasagodento.com	ニシハラ理工株式会社 代表取締役 西原 敬一 本社・武蔵村山工場 東京都武蔵村山市伊奈平2-1-1 〒208-0023 TEL042(560)4011 FAX042(560)8550 狭山工場 埼玉県入間市狭山ヶ原 108 〒358-0032 TEL042(934)6116 FAX042(934)4640 佐賀工場 佐賀県三養基郡上峰町堤2100-34 〒849-0124 TEL0952(53)1215 FAX0952(53)1210
株式会社精密電化工業所 代表取締役 大内 源司 専務取締役 西村 福司 〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-2-27 TEL042(541)2250 FAX042(541)0894	 株式会社 杉並化学 代表取締役 角田 洋久 〒196-0021 東京都昭島市武蔵野2-9-9 TEL042(544)1578 FAX042(544)3415
東京都鍍金工業組合 亜鉛めっき部会 会 長 菊池 忠男 副会長 遠藤 清 副会長 半田 實 副会長 中村 昭人 副会長 内山 昇 役員 一同 〒113-0034 東京都文京区湯島1-11-10 TEL03(3814)5621 FAX03(3816)6166	株式会社 吉崎メッキ化工所 代表取締役 吉崎 一紘 〒190-0033 東京都立川市一番町4-73-3 TEL042(531)1242 FAX042(531)6734 http://www.yoshizaki-mekki.co.jp info@yoshizaki-mekki.co.jp

<随想>

哀愁 湖底の古里

組合相談役 江原たけじ



夏の風物詩は「水と涼風」が最高の喜びであった。

江戸時代から「浮世絵、演劇、講談」その他人間社会に密着した「エピソード」が沢山あるが、夏の風物詩は、次第に忘れ去られて行く。近代化、現代化で電気という「化け物」がさらって行くが致し返しである。

東京都民として忘れては成らない大切な事が忘れられつつある。江戸城構築時代から問題になっていた水利問題である。武蔵野台地は水脈に乏しく、農民の大きな悩みであったが当時の権力には勝てず、現在も玉川上水が名残をとどめている。

大正時代には羽村堰の問題で、地区代表者が、筵旗を建てて東京市長舎に押しかけて、警備の警官と揉み合い、紋付き、袴を破られた事件は有名である。その後、国策で治山治水対策を重点に実施したのであった。営林局の協力で、植林も実施され、森林が多くなったのであった。

昭和時代になると、軍事産業が盛んになり、その他の産業も発展した。東京の人口は急増して水の不足が深刻になり、夏の間は市民に節水と呼び掛ける状態が続いたこともあった。対策として「村山、山口」貯水池で一時凌ぎをしたのであった。

次の対策が全国で、初めての、生活用水を目的とした「ダム」建設である。東京府の最奥地方が多摩川の水源地帯であった。多摩川に平行して通るのが裏甲州街道、昔からの多くの歴史があるので、参考までに少し触れてみよう。

起点になるのが織物で有名になった「青梅町」で「平将門」に関する史蹟等もあり、鎌倉時代には橋がないので、山際を戦略通路とした史蹟もある。此の「青梅」を起点に上流を奥多摩と最近は言っている。立川駅からの青梅電鉄は、当時、石灰石運搬用であったが、地元の要求もあり、当時は御岳駅が終点であった。更に溪谷沿いに六キロ進むと氷川村で街道の宿場で立派な氷川神社がある。水量はあまり変わらないが、支流の日原川が右に流れている。支流に沿って登ると左側に寺地村、山崩れで全村陥没の跡があり、更に登ると水源第一の川乗滝がある。此の先に進むと【日原の鍾乳洞】裏山から石灰石が採掘され、空中ケーブルで二俣に搬送され、青梅電鉄に連結されている。左の急な尾根を登ると植林された檜林が美しく、涼風が肌を撫でて心地良く最高の森林浴である。暫く登ると小高い所があり「七つ石」平将門の同志が自殉した場所であるとの伝説がある、更に登ると「雲取山」に至る。

本流に戻り街道の宿場であった【小河内村】只一軒の温泉宿【鶴の湯】があり此处から上流は比較的平凡の河原になって、丹波村であり小さな盆地の感じがする地域で上流は丹波川と言っている。

各方面の分岐点でもあって、「中里介山」の長編小説「大菩薩峠」のゆかり地でもある。落ち武者部落の感じもするのは、山中に立派な田舎家が見えて、周辺に埴生の宿が点在しているので、山里には珍しい牧歌的のどかな村落だ。此の地域が東京市のために、湖底になる計画で、生活用水のダムとしては、全国で初めての試みである。

先祖代々大切に受け継いできた、故郷、土地家屋、先祖代々の安らかに眠る墓、簡単に容認出

来ない悩みは、この土地の人々の共通した苦しみであった。慰めの言葉も無いやるせなさを心に秘めて、湖底に沈む古里の人々の切なる真意をそのままに「哀愁のメロデー」名文の「歌詞」に感動して、この恩義に報いたい思いで同情の心がわいた。

自然青春時代は東京の水源地帯、大菩薩連峰は僕の格好のゲレンデであった。ダム建設は自然破壊と、湖底に沈む村人の事を考えて反対した。市民で在ることを思うと複雑の気持ちであった。ラジオから流れる「湖底の古里」「哀愁のメロデーと歌詞」に感動したものだ。山歩きも日暮れが近づき、山里に白い煙が立ちのぼる頃は山の彼方に夕日が沈み山間は急に涼しくなる。「夕日は紅く、身は悲し、涙は熱く、ほほぬらす、

さらば湖底の古里よ、幼き夢の揺りかごよ」

七十五年前、青春時代の思い出であり、歌詞も、うろ覚えで、定かでない。

戦争で大変工期も遅れて、戦後、水不足で市民は苦勞した事も知る人が少なくなってしまった。湖底の古里を後にした人々はいない。「小河内ダム」建設は軍備拡張計画のため、一時中止になってしまった。「鋸尾根」の中間地点にダムの高さを測定した、標識が見え、悲しき想い出の的になっていた。何時の日か湖底の古里になる事を想像したものであった。その後は現役兵であったので、満州事変の関係で世相は軍事一色になる。

陸軍関係は、東京市内の施設が手狭になった。神奈川県、相模原地区に移転する計画が決定したのである。「座間地域」には陸軍士官学校、陸軍病院、電信第一連隊、各施設である。「淵野辺地域」には「旧砲兵工廠」兵器工廠、兵器学校、関連施設。

相模原台地も水脈が乏しいので、相模川の水利問題で「ダム」建設が急速に計画され緊急工事が推進された。工事関係者、資材共に一局集中、労働者不足で中国人、苦力まで連行しての突貫工事で完成したのが「相模湖」である。相模湖の湖底には「與瀬の故郷」があったが、国家事業であり、無条件で協力し無ければならなかった。戦時中は小河内村の問題は置き去りであった。昭和十年以降の国内問題は軍事優先で推進されたのであった。その後、日中戦争から、大東亜戦争に拡大して、遂に終戦になった。その昔、横浜港は、外国船関係、水の補給基地として貢献した歴史がある。

神奈川県の水源地は、富士山の伏流水で在り、相模湖ダムの恩恵もあって水の心配はなく、東京市の給水にも協力した期間もあった。終戦後も、焦土化した東京市は生活用水の給水は深刻であった。多摩川の各所に小さな水門を建設、生活用水の取り入れで緊急対策を取ったが、最悪状態で、世田谷区、大田区の給水状態は最悪で断水もあった。戦後の混乱期にもめげず「小河内」ダムの建設は資材不足にもかかわらず、昭和三十二年に完成したのであった。

戦後経済の混乱期でもあって、建設計画当時の感激は無かった。哀愁、湖底の古里に感傷を抱いた、人々の心と共に、湖底に沈んでしまった。ダムの完成後も、経済成長と共にベビーブームもあって、生活用水は不足した。その後の対策として、群馬県、利根川水系と荒川の水源地の協力を得て給水関係は安定の方向に推移したのである。

産業推進は成功したが。公害問題が発生して、取り締まり強化が実施され、特に水質問題は河川の汚濁、悪臭、日本列島の汚染は甚だしく水質保全対策の強化で改善され、初期の目的は達成した。

公害問題は世界的に感心が高まり、取り締まり強化が盛んに在る。水質問題は生命の根源である事を自覚しよう。日本国の、水質、水量は世界に冠たる、天賦の國である。

以上、東京都の、生活水源の歴史を紹介した。水源を大切に感謝しよう。

ピックアップ

研究開発型企業の挑戦

(日刊工業新聞 04.6.22)

「創造と革新に熱意で挑戦」を経営方針に掲げる塚田理研工業の歴史は、メッキ分野の新技术開発の道のりでもある。63年に業界に先駆けてプラスチックへの電気メッキの工業化に成功したのを機に飛躍し、現在では自動車や家電、IT関連など多方面に表面処理加工を提供している。技術開発を前面に押し出すのは、「首都圏や名阪など大市場に遠い」(下島康保社長)という立地の不利を品質ではねのけるため。少量・短納期といった受注にも応えて取引先を拡大してきた。技術的に困難な仕事を積極的に獲得することで、利益面で付加価値を得ようという考えだ。

開発専任要員は3人だが下島社長を先頭に多くの社員が新技术への取り組みに参加している。これらは現場における試行錯誤の中から生まれてくるものも多い。

このほど本社敷地内の工場を増設して稼働を始めた。これは受注の拡大に対応するだけでなく、新技术の開発と工業化が迅速に行える環境を整えるためでもある。

現在、取り組んでいる大きなテーマの一つは環境問題。六価クロムからより環境に配慮した三価クロムへの転換は順調に進んでいる。また、メッキ業界につきまとう環境へのマイナスイメージを払拭しようと、樹脂メッキ部品を回収・はく離して、メッキと樹脂の両素材をそれぞれリサイクルするシステムを03年に立ち上げた。メッキ工程に用いる水のリサイクルも「(使用量全体の)90%にまでこぎつけた。100%を達成するのも遠い日ではない」(同)という。

CNT複合メッキ技術

(日刊工業新聞 04.6.24)

日精樹脂工業(長野県坂城町、依田穂積社長)は22日、信州大学工学部の遠藤守信教授らと共同で、カーボンナノ材料複合メッキ技術を開発したと発表した。カーボンナノファイバー(CNF)を取り込みながら、厚みが均一で表面に凹凸のない滑らかな膜状複合メッキを生成する技術をニッケルメッキで実現した。CNFを含有しないニッケルメッキに比べ熱伝導率で2倍近く優れた特性が得られる。同技術は、電気や熱を効果的に伝える特性を持つCNFを、分散剤と平滑化剤を添加したメッキ液中に分散、電解メッキ処理を行う。内部に微小穴がなくCNFが均一に複合されるため、機械的強度や熱伝導率、熱放射率で高い値を確認した。

メッキ2極化

(日刊工業新聞 04.6.25)

東京下町の地場産業の一つであるメッキ業に2極化が生じている。下講型中小企業としては代表格のメッキ業界。製造業の海外生産シフトに伴う受注量の減少や厳しい環境規制の板挟みで廃業・転業に追い込まれる企業が相次いでいる。一方で、技術革新やマーケティング戦略により新たな安定需要家を獲得し、業績を急伸させている企業も少なくない。下町メッキ業の現状を追った。

「年明けにも月間1800万個の量産体制に入る」。下町で最も多くのメッキ業者が集結する墨田区で50年以上、事業を営んできた深中メッキ(深田昭子社長)に5月、国内電機メーカーを経由して、海外の大手携帯電話機メーカーから内部部品のメッキで大量受注が舞い込んだ。深中メッキは、「メッキを均一に施す技術」(深田稔専務)を武器に「スピーカー端子の国内シェアで9割以上」(同)を握っている。東京都鍍金工業組合によると、75年に1200社以上あった組合員が03年には約540社に激

減。「毎年、20—30 社が抜けている」(宮澤裕専務理事)状況。「メッキなど 3K(きつい・汚い・危険)職場が減る理由の多くは後継者不在」(関満博一橋大学大学院教授)。

早くから有害物質の六価クロムを三価クロムに転換するなど環境対策に取り組んできたヒキフネ(葛飾区、石川輝夫社長)。装飾メッキを得意とする同社は、都内メッキ業の中では最大規模となる従業員 100 人以上を抱えている。装飾メッキは価格競争にさらされやすい。だが、同社は業界では珍しく「トレンドを追い続けるためのアンテナ」(石川英孝専務)として営業部門を設置。最新のニーズを広い集めたうえで、エレクトロニクスや自動車といった時代の主役の要請に応じてきた。

桑名商事 メッキ現場見せ若手採用

(日刊工業新聞 04.7.5)

「会社はあくまでも人の能力を発揮させる舞台。働く人たちの選択を大事にし、その環境を整えるのが経営者の役目」一。そう語るのは、桑名商事の桑名朗社長。同社は金属の表面処理を手掛け、特に無電解による機能メッキを得意とする。桑名社長は今、熱心に社員採用に取り組んでいる。社員 68 人のうち、およそ 4 割が 50 代となり、平均年齢は 41 歳。機動力が課題だという。そこで自ら動き出した。訪れた応募者には、会社の中を隠さず案内して回る。「端から端まで、あえて見せたくない所まで見せる。メッキの世界には、泥臭い現場も多い」(桑名社長)からだ。短い時間でも、仕事ができるかどうかの判断材料をできる限り提供することを、採用の際に大切に。雇用のミスマッチが多く見受けられる昨今の採用事情。「人を預かるからには、その人にとってプラスにしたい」(同)と熱く語る。

立川工業会会長に就任した吉崎一紘氏

(日刊工業新聞 04.7.7)

「会員が磨き上げてきた技術やサービスで地域に貢献したい。夢は工業に関心を持ってもらえるように、小中学校の総合学習時間向けの見学コースをつくること」と目を輝かす。

立川工業会は、東京都立川市砂川地区のモノづくり企業を中心に約 70 社で構成し、創立 27 年目を迎えた。新海春人会長の死去に伴い、3 月の臨時総会で就任した。

日産自動車村山工場の閉鎖、準工業地域に隣接して建設が進む集合住宅など、取り巻く環境は変化している。東京 23 区内からこの地に“誘導”されてきた企業も少なくない。「会をあげて都市型産業の今後を考える必要があるが、『安住の地』と呼べる地はそうそうないものか」と苦笑する。機械・金属関連にとどまらず、会員の業種は多彩。環境に配慮した操業や住民との懇親、自治体との対話を通じて地域の理解を得ながら工業復興に力を注ぐ。

社内情報システム刷新

(日刊工業新聞 04.7.13)

ヒキフネ(石川輝夫社長)は社内情報システムを刷新した。事務所と工場間を 100 M²ビットの光通信網で結んで V P N (仮想私設網)を構築したほか、オフコンを撤廃し、サーバを分散したオープンシステムに切り替えた。情報の共有化や生産管理、営業力強化が狙い。中小製造業の I T 化としては先進的な取り組みだ。生産、販売管理などの基幹業務のソフトには手を加えずに、オープン化への移行を進めた。その結果、保守部品不足で高額になっていたオフコンの保守料を引き下げたうえ、数時間を要していた月次データの更新時間を数分間に短縮化できる見通し。また、本社、工場間を従来の専用回線からインターネットに切り替えたことで回線使用料も 6 分の 1 程度になった。システム構築は大塚商会在任が担当。オフコンのソフトを継承・稼働することがができる NEC のウィンドウズ搭載サーバや、社内文書を共有・保管するファイルサーバをはじめ、グループウェアを稼働する営業支援サーバ、製品単価を検索するウェブサーバ、社内 LAN と公衆インターネット網の接続地点に設置する V P N 装置、パソコン 2 台などを導入した。

足立支部の巻 千住ミルデイス

北千住駅前が大きく生まれ変わりました。その名も「千住ミルデイス」。この「千住ミルデイス」という愛称は”千住→1010(千十)”をフランス語M I L D I Xで表現しています。

北千住駅西口地区第一種市街地再開発事業は、昭和 55 年から始まり今年の 2 月に「千住ミルデイス」の竣工を迎えました。

北千住駅は東京北東部最大のターミナル駅で、1 日の乗降客数約 160 万人、現在乗り入れている鉄道は J R 常磐線、東武鉄道、東京メトロ日比谷線、同千代田線ですが、来年には常磐新線（つくばエクスプレス）も開通する予定です。都心の東の玄関口、一大ターミナル北千住駅前の立体的な整備や商業・文化的拠点施設を核に、業務・住宅・駐車場・駐輪場等多くの機能が導入された、毎日を豊かにする複合施設として「千住ミルデイス」は誕生したのです。

この「千住ミルデイス」は I 番館・II 番館の 2 棟で構成されており、I 番館は、地下 1 階から地上 9 階までは足立区内初の都市型百貨店として丸井最大の売場面積を持つ北千住マルイの他、ミルデイス専門店などがあります。



ミルデイス II 番館



ミルデイス I 番館

また、10 階は稽古場やアトリエ、音楽練習室など様々に利用できる部屋があり、区民の文化芸術の創造と発展の場となるよう計画されています。さらに、11 階には 701 席を有する本格的な劇場「シアター1010」と、多目的ギャラリーがあります（シアター1010 は 9 月から公演開始）。II 番館は、北千住エリア初の駅と直結した超高層 26 階建タワーマンションとなっており、9 階から 26 階までが住宅となっています。4 階から 6 階はオフィスフロア、3 階は内科・整形外科・耳鼻科・眼科・

心療内科・歯科・皮膚科等の総合的なクリニックがあり、1階は処方箋薬局と店舗となっています。そのほかにもⅠ番館やⅡ番館には駐車場・駐輪場が完備されています。

また、駅前広場は駅前通りにあったバス停留所を集約し、タクシープールも確保されています。さらに、足立区の玄関として「足立の顔」にふさわしい”人に優しく・暖かく・柔らかく”をテーマにした快適・開放感・清潔な歩行空間の創造を目指した”ペデストリアンデッキ”も建設されました。

このように生まれ変わった北千住駅前、昔を知っている人も、そうでない人も是非訪れてみてください。

(広報委員・小島一浩)

協力 北千住駅西口地区市街地再開発
組合 足立区役所



バス停・タクシープール



ペデストリアンデッキ



ペデストリアンデッキから見た
ミルディスⅠ番館(左)とルミネ



黒 服

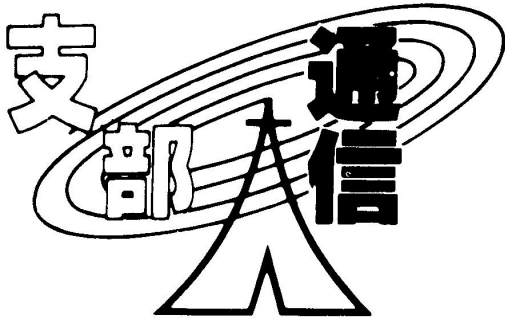


藤田直人(品川支部)

先日テレビで見たのだが、オヤジくさくない服装には濃い色のスーツがよいそうである。ラインがすっきり見え、またしわなどが目立たないのがいいらしい。私は考えてみると濃い色というのは最近ではあまり買わない。黒服などというのはその昔のディスコ・・・オヤジだな。オヤジくさいと言われるのはいやだがオヤジに違いないのだからしょうがない。私などは普段作業服ばかりなので出かけるときはラフな格好が多いがたまにしか着ないスーツは地味にならないよう私なりに気を遣っている。女房には汚れが目立たない色などと言われるが自分の好みである。

それで思い出したのが最近のリクルートスーツのはやりなのだが、黒または限りなく黒に近い「グレー」「紺」あるいは「焦げ茶」などがはやっているようである。気になり始めたのが昨年の夏休み頃の会社訪問者で、出かけた先で私には場違いと思えるほど妙に黒い服を着た若い人たちをあちらこちらで見かけ「ここらで法事とは？」と思ったものである。その後近所のホールや会館などでどこか大手の会社の就職説明会、入社式、あるいは会社訪問らしき若い人たちがいるとほとんど男女の区別なく真っ黒なのである。近所の量販店やスーパーなどで聞いたところやはり黒（もしくは黒っぽい）の売れ行きが一番だそうである。この春にも久しぶりに満員電車に乗って 法事でもあったかと思った覚えもある。こんなに黒い服ばかりでは景気もいつまでたっても明るくならないと思ったものである。せめて新入社員だけでも明るい服装をして世の中明るくしてほしいと思うのにリクルートスーツすなわち新入社員およびこれから新入社員となる人たちが黒ばかりでは・・・。

今年の夏も会社訪問の方たちを改めてよく見てみようと思う。



■中央支部

6 月例会

中央支部(小嶋摂郎支部長)は6月23日(水)午後6時から台東区松が谷の矢先神社内松葉町会館で例会を開催した。

例会では、浅草消防署予防課危険物・調査係の宮本義正係長が防災について、組合環境科学研究所の志賀孝作所長が排水処理の基本について講演、支部員19名が熱心に聴講した。

新井富保副支部長の司会で開会し、小嶋支部長は「多数のご参加を頂き感謝申し上げます。今日は毎日行っている排水処理について、志賀環研所長の講習により再度基本から勉強して頂き、無駄な薬品等があれば見直して安全で確実な排水処理をして頂きたい。我々めっき業は水と電気、火を使う環境の中で安全に配慮して仕事をしているが、浅草消防署の予防の話を参考にして頂きたい講習後、本部報告

ささやかな懇親会を行うので最後まで協力ください」と挨拶した。

はじめに浅草消防署予防課の宮本係長が資料に基づいて①平成15年中の東京消防庁及び台東区内の災害状況、②エアゾール缶等による火災事故の発生、③家庭内の事故、④危険物安全週間中のベンジン火災、⑤消火器等訪問点検に注意を、⑥火災警報器設置を、⑦住宅用火災警報器による火災確知の奏効事例、⑧消防法で定められている危険物及び指定数量等、具体的な火災事例を交えながら説明した。それによると、平成15年の火災発生件数は台東区(上野、浅草、日本堤)137件、東京消防庁合計6,234件、東京消防庁管内の主な原因として放火(疑いを含む)37.5%、煙草14.6%、ガステーブル等9.8%、火遊び2.9%、電気ストーブ1.5%の順となっている。

次に志賀環研所長は、排水処理の基本として、目的、排水区分、シアン系排水処理(アルカリ塩素法)、シアノ鉄錯塩の



処理(紺青法)、クロム(6価クロム)系排水処理(還元処理)、金属水酸化物凝集・沈降(鉛処理上の注意点、亜鉛処理上の注意点、ほう素・ふっ素等)について、具体的なトラブル事例をまじえて講演した。講演後も、無電解ニッケルの処理やセレン処理などについて活発な質疑応答が行われた。

講演を終了して、小嶋支部長から、①今年は旅行会を休み他の行事を検討している。②本部新年会(1/7 京王プラザ)に対し中央支部として全面支援していきたい。そこで支部の新年会を取りやめて支部員全員が本部新年会に参加して頂きたい方針である。ほう素・ふっ素の排水データの提供等の説明があり、例会を終了した。

■葛飾支部

釣り会

6月6日(日)内房・岩井海岸で13名が参加しキス釣り大会を開催した。

午前3時、差し入れの飲み物とおにぎりを各自のクーラーに入れ、支郊事務局前を3台の車に分乗して出発。2艘に分かれて5時20分出船、航程5分すぐに釣り開始、ポツラポツラ上手下手なく目的のキスが針にぶらさがってきて気が狂うほど楽しかった。

2つの船は、神谷支部長持参の電池式無線で連絡を取り合っていたのですが、降りしきる梅雨入りのはげしい雨のためか、それとも、機械操作が悪かったのか、間もなく音信不通となり、携帯電話での連絡となった。

相手の船にはこちらの状況がわからない事を幸いに言いたい放題のやりとりの中、46cmほどのメゴチが上ったとの知らせが入る。犯人は支部長とのこと。ヒキフネの中沢英一氏までもが同等のワニゴチを上げ、あちらの船は大騒ぎ。当然ガセに決まっていると思いながらも、ドジなマゴチだな～言いながら海面を釣竿でバシャバシャ叩いて羨望の思いを波に消す。

予算の都合で粗品程度ではありますが、大物賞を設け、一番大きなキス(26cm)を上げた(株)ヒキフネ技研の早坂英雄氏に贈る事となりました。

PM2:30～近場レストラン トンデンで各自、自由な食事を採って頂き、流れ解散となる。

お酒となると自制心が全く働かなくなるいつもの面々7名は中田充彦副支部長常宿の料亭・翠好へ行き、あろうことか42cmのヒラメを釣り上げちゃった、釣り会担当副支部長・伊藤精二氏の鮮やかな包丁さばきも手伝って先程釣り上げたマゴチの刺身とプチュプチュ音のするキスのてんぷらを頬張りながら生ビール・焼酎・日本酒と三種混合の酒の味を堪能して夜遅く(時間は不明)良くわからないうちに解散となりました。

楽しくも、疲れた一日でした

(釣り係 西谷幸一)

■連合青年部会

勉強会開催

連合青年部会(深田稔会長)は6月11日(金)午後7時から亀戸文化センターで、一橋大学大学院商学部の関満博教授を招いて「アジアの中の日本」をテーマとする講演を聴いた。当日は連青会員はじめ同大学生など48名が聴講した。深田会長が関教授の略歴を紹介し早速講演に入った。以下講演の一部を紹介する。

中国の山東省を調査した際、通訳として5カ国語使いこなす黄河氏を雇った。黄河氏は繊維や食品等を中国、日本、韓国、北米等をつなぐ仕事をしているが、1年のうち250日は日本や北米におり、自宅で食事をしたことがない多忙を極めている。我々の調査に参加したのは、たまにはビジネス以外の時間を持ちたいという理由である。35才で引退したい。お金は十分に稼いだので、3年間はハーバード大学大学院で勉強し、次の3年間は日本の私のところで預かってくれ。6年間勉強したあとは社会的影響力のある学者か政治家になりたいという。中国はここ10数年で劇的に変わった。さらに10数年でもっと劇的に変わる。その新しい中国をいまの指導者では指導できない。新しい中国には新しい指導者が必要でそれになるという。日本も130年前はそうした人物がいたが戦後60年にそういう人はいない。中国にはそういう思いをもって何とかしようと考えている若者が出始めている。その黄河氏から電話があり、先生のゼミ生を春休みか夏休み1ヶ月くらい預かりましょうとい

う。日本の若者がいまの上海をみて何も感じないなら日本は終わりですよという。学生に話して誰が手を上げるか、女の子は自分のことは自分で決められるが、男子は判断できない。男子は予想通りお母さんに聞かないとわからないという。いつまでにお母さんと相談してこいと、結局男子6人女子2人がいくことになった。出発前、中国語がわからないで大丈夫でしょうかと不安を訴えてきたが、励まして送り出した。1ヶ月が過ぎて元気に帰ってきた。半分は黄河氏の鞆持ちで、あとは食品加工会社の仕事であったという。ところで男子はなぜ自分のことが決められないのか、日本が豊かになったこと、子育てに父親が参加しないことなどがある。日本は相変わらず男子が大事で、母親は有名な大学へ入って名の通った企業へ入るのが成功だと思っている。逆に女子は生まれた時から母親に見放されている。その局面で自分で意思決定せざるを得ないので、自分のことは自分で決められるが、男子はどうしてよいかわからない。この傾向は年々ひどくなっている。それ以来3年生は中国の厳しい現場で働いてこいと送り出している。



東京都中小企業の景況(平成 16 年 6 月調査) 東京都産業労働局産業政策部
○都内中小企業の業況は 8 ポイント悪化し、回復基調にあるものの、1 月以降「改善」「悪化」を繰り返す一進一退の動きとなっている。業種別では製造業のみ横ばい。卸売業、小売業、サービス業は悪化した。向こう 3 ケ月の業況見通しは、引き続き期待感が持続している。
○5 月の都内中小企業の業況は▲32(前月▲26)と 8 ポイント悪化し、回復基調の中で一進一退の動きとなった。製造業は▲17(同▲18)と横ばいに推移し、2 ヶ月連続で▲10 台となった。卸売業は▲31(同▲21)、小売業は▲58(同▲48)とそれぞれ 10 ポイント下がり悪化した。

業種区分でみると、製造業は「食料品・その他」の 18 ポイント悪化と、「金属材料」の 14 ポイント改善が目立つ。卸売業は「機械器具」のみ 4 ポイント改善した他全区分で悪化した。
○前年同月比の売上高は▲32(前月▲19)と 13 ポイントの大幅な悪化となった。業種別では製造業が 6 ポイント、卸売業は 17 ポイント、小売業は 20 ポイント、サービス業は 8 ポイント悪化し、卸売業と小売業の悪化が目立つ。業種区分でみると改善については製造業の「食料品・その他」14 ポイントの大幅改善が目立つ。悪化については卸売業の「衣料・身の回り品」31 ポイント、小売業の「耐久消費財」41 ポイント、「衣料・身の回り品」34 ポイント、サービス業の「個人関連サービス」22 ポイントの悪化が目立つ

○当月と比べた向こう 3 ケ月(6~8 月)の業況見通しは、▲12(前月▲10)とわずかに悪化したものの、先行きへの期待感は弱まっていない。業種別にみると製造業は▲9(同▲5)と 4 ポイント悪化。卸売業は▲7(同▲9)と 2 ポイント、小売業は▲18(同▲22)と 4 ポイント改善した。

編集後記

連日暑い日が続いているが、7 月 20 日には観測史上最高の東京大手町で 39.5 度、千葉市原 40.2 度を記録するなど各地で驚異的な猛暑となった。他方、新潟や福井では集中豪雨により大規模な水害が多発している。マスコミなどは、フェーン現象や、フィリピン付近の海水温が平年より高く、太平洋高気圧の勢力が強くなって、新潟や北陸を襲った豪雨はこの太平洋高気圧から吹き出した暖かく湿った空気が前線に流れ込んだことが原因と、専門家の説明は解りやすく納得できるが、素人目にはその他に異常気象や、地球環境が少しおかしくなっているのではないかとも思える。

この猛暑のため冷房用需要が増して消費電力もピークに達したという。たしかにエアコンは電力消費が大きく家庭用でも 2~3 台同時に使うとブレーカーが下りてしまうことがある。私事だが数十年前の古い小

さなエアコンは電力効率も悪く、新しい機種は省エネも進んでいるだろうと入れ替え、新しい機種はそれなりに性能も良さそうである。ただ古い機種は国内メーカー製でないことから廃棄処分料は割高となった。改めて家電や耐久消費財を買う時は廃棄のことまで考えなければいけないと思った。

広報 7 月号

印刷 平成 16 年 7 月 15 日
発行 平成 16 年 7 月 15 日
(毎月 1 回 20 日発行 第 37 巻第 7 号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島 1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 木村 秀利
印刷 スザキ企画 Tel047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町 2-1419-4
定 価 500 円